

ウガンダ月報(2018年8月)

主な出来事

【内政】

- コンゴ(民)東部で発生したエボラ出血熱に対するウガンダ政府の対応
- アルアでの国民議会議員選挙運動時の騒擾事件
- カイフラ前警察長官に対する告訴及び保釈

【外政】

- ムセベニ大統領「ハルツーム宣言」の保証人に
- ムセベニ大統領とマグフリ・タンザニア大統領の会談

【経済】

- EACへの海外直接投資の減少
- タンザニアはウガンダ産の砂糖に25%の課税
- 政府はトウモロコシの買付のために2,600万米ドルを拠出
- ウガンダ・中国貿易は8億1,100万米ドル規模に拡大
- 中東で就労するためにウガンダ国民100名以上が出発
- 市中銀行の利率は過去10年間で最低水準
- ウガンダはバスの組立てを開始
- シンバ・セメント工場の稼働
- 農業輸出収入の増加

【経済協力】

- クイーンズウェイ変電所改修計画の完工式
- 官民連携を通じた公衆衛生案件の開始式

【内政】

- ウガンダ政府は、隣国コンゴ(民)でのエボラ出血熱発生を受け、同国と国境を接する5県において、ウガンダに入国してくる者全てを対象にエボラ出血熱の兆候を検査している。また、県の保健チームを指導し、世界保健機関(WHO)とも協働し対応にあたっている。(10日付ニュー・ビジョン紙及びデイリー・モニター紙)
- 8月15日、ウガンダ北部のアルア市選挙区で国民議会議員の補欠選挙が実施された。選挙運動最終日の13日、無所属のカッシャーノ・ワドゥリ候補の支持者が、与党NRMの支持者及び応援に来ていたムセベニ大統領の車列に対し投石するなどしたため、大統領の警護隊と衝突し、2名の死者を出し複数名が怪我を負った。ワドゥリ候補本人、同氏の応援に駆けつけていたボビ・ワイン国会議員(注:元々ウガンダの人気ミュージシャン。本名はロバート・センタム・チャグラニ。)及びその他のワドゥリ候補支持者33名(うち現職国会議員3名含む)が逮捕・拘留された。15日、ワドゥリ候補は、拘留中に当選を果たした。ボビ・ワイン議員を

含む拘留された人々はひどい暴力を受けた様子が見られ、ボビ・ワイン重体説や、同じく拘留されたフランシス・ザーケ・ミティアナ市選出国會議員の死亡説などの噂が流れた。これに抗議する市民が、19日ウガンダ中部のミティアナ県で、20日カンパラでデモを起こし、一時治安が悪化した。23日、ワイン議員はグル市内の軍事裁判所に出廷し、武器不法所持の容疑による訴追を取り下げられた一方、その直後に、そのままグル市内の一般裁判所へ連行され、大統領車両に投石した国家反逆罪の容疑で逮捕・拘留する旨告げられた。27日、ボビ・ワイン議員及びその他32名は保釈された。（各紙報道より作成）

- 6月13日からウガンダ軍により身柄を拘束されていたカイフラ前警察長官は、8月24日、戦争物資（武器）の適切な管理を怠った容疑2件及びルワンダ人の誘拐を幫助した容疑1件で告訴された。前者が有罪とされた場合には、死刑に処される。また、8月28日に同氏はカンパラ及び郊外のワキソ県から外に出ないという条件付きで保釈された。（25日付ニュー・ビジョン紙及びデیلیー・モニター紙、29日付ニュー・ビジョン紙及びデیلیー・モニター紙）

【外政】

- 8月5日、ムセベニ大統領はハルツームで開催された南スーダンの暫定政府の体制に関する合意（通称「ハルツーム宣言」）の署名式に参加し、バシール・スーダン大統領とともに、保証人の一人として署名した。ムセベニ大統領は、大臣を代理で派遣し、自身はウガンダの農場にいたが、バシール大統領から出席を強く要請され、急遽ハルツームに飛んだ。ムセベニ大統領は、アフリカにおける紛争の根本原因を機会主義、弱いアイデンティティーにあるとし、これら根本原因が開発の遅延を招いているため、アフリカは自らの問題を外交的な美辞麗句抜きで率直な言葉で話し合わなければならないと力説した。（7日及び8日付ニュー・ビジョン紙）
- 8月9日、ムセベニ大統領はマグフリ・タンザニア大統領と会談するためダルエスサラームを訪問した。本会談の主な理由は、EAC議長であるムセベニ大統領が南アフリカで開催されたBRICSサミットに参加した際のことをマグフリ大統領に説明することであった。その他、南スーダンでの和平交渉の進捗やブルンジの状況などを説明した。さらに、ムセベニ大統領は電力分野での協力を早めていくことを強調し、タンザニアのモシからムウエンザへの鉄道施設及びムウエンザからウガンダへのフェリーの運航が検討されていることを評価した。（10日付ニュー・ビジョン紙）

【経済】

- 東アフリカにおける海外直接投資の流入は、2016年の88億米ドルから、25.3%減少し、昨年には66億米ドルとなった。（イースト・アフリカン紙（8月4日－10日号））
- タンザニアは、ウガンダが輸出する砂糖に25%の税を課した。ウガンダ歳入庁（URA）関係者は、「タンザニアによる25%の課税の決定は、EACの規則及び共通市場の取決に違反する。」と述べた。これを受けて、9日、ダルエスサラームでムセベニ大統領と会談したマグフリ・

タンザニア大統領は、「第三国で生産された砂糖製品が、ウガンダ産として、タンザニアに密輸されているという知らせを受けている。違法な活動を抑止するために取引を禁止した。」と述べた。(6日付デイリー・モニター紙及び10日付ニュー・ビジョン紙)

- ウガンダ政府は、全国的に急落するトウモロコシ価格を安定化させるために約2,600万米ドルを確保した。カサイジャ財務大臣によると、現在、1キログラムのトウモロコシが150シリングから200シリング(約0.05米ドル)で販売されている。カサイジャ大臣は、市場の状況は思わしくないが、農家に、トウモロコシを500シリング以下で販売しないよう呼びかけた。(9日付ニュー・ビジョン紙)
- 在ウガンダ中国大使館によると、ウガンダと中国の間の貿易額は8億1,100万米ドルにまで拡大し、中国はウガンダにとっての第三の貿易相手となった。昨年、ウガンダにおける中国からの海外直接投資は4億米ドルに達し、16,000人もの雇用を生み出した。中国は、ウガンダにおける最大の海外直接投資国であり、中国の投資家にとっても、ウガンダはアフリカで第四位の投資先である。(9日付デイリー・モニター紙)
- 人材派遣会社(Middle East Consultants Limited.)は、ア首連でドライバー、清掃員及び警備員として働くこととなるウガンダ国民100名以上を送り出した。関係者によると、彼らは既にドバイ及びカタールで働くための2年間の契約を結んでおり、就労ビザが与えられ、契約の更新も可能である。(13日付デイリー・モニター紙)(なお、オマーン、ア首連、カタール等の中東諸国へは、人身売買により連れていかれるウガンダ人も多いことから、内務省が警戒を強めている。)
- ウガンダ中央銀行(BOU)は、13日、市中銀行の貸出金利は、過去10年間で最も低い水準である17.7%まで低下したと発表した。BOUによると、これは、2016年2月からの緩和的金融政策によるものである。BOUが緩和的金融政策を開始したとき、金利は25.2%であった。(14日付ニュー・ビジョン紙及びデイリー・モニター紙)
- カンパラ東部のナマンベ(Namanve)に位置するメトゥ・ゾントン・バス産業(Metu Zongtong Bus Industries)社のメトゥ会長は、民間で初めてバスの組立てを始めた。メトゥ会長は、「我々は2か月前に(事業を)始めたばかりだが、我々の目標は全ての地域にバスを売り込むための組立拠点となることである。現在、我々は50名のウガンダ人を雇用しており、最初のバスがまもなく完成する。」と述べた。(27日付ニュー・ビジョン紙)
- 28日、「ム」大統領は(ウガンダ東部の)トロロ県で、シンバ(Simba)・セメント工場の開所式を執り行った。現在、この工場では約400名を雇用しており、総工費は5,500万米ドルと見積もられている。統計によると、ウガンダは現在、240万トンの国内需要に対して445万トンのセメントを生産しているが、ウガンダ統計局は、国内のセメント需要は毎年10%程度増加すると予想している。(29日付ニュー・ビジョン紙)
- ウガンダの農業輸出収入は、コーヒーの輸出が増加したことから、2016年の120万米ドルから、2017年には150万米ドルに増加した。2016年には60キログラム入りの袋で354万袋を輸出していたが、2017年には478万袋を輸出した。地方部の月収は2012/13年度

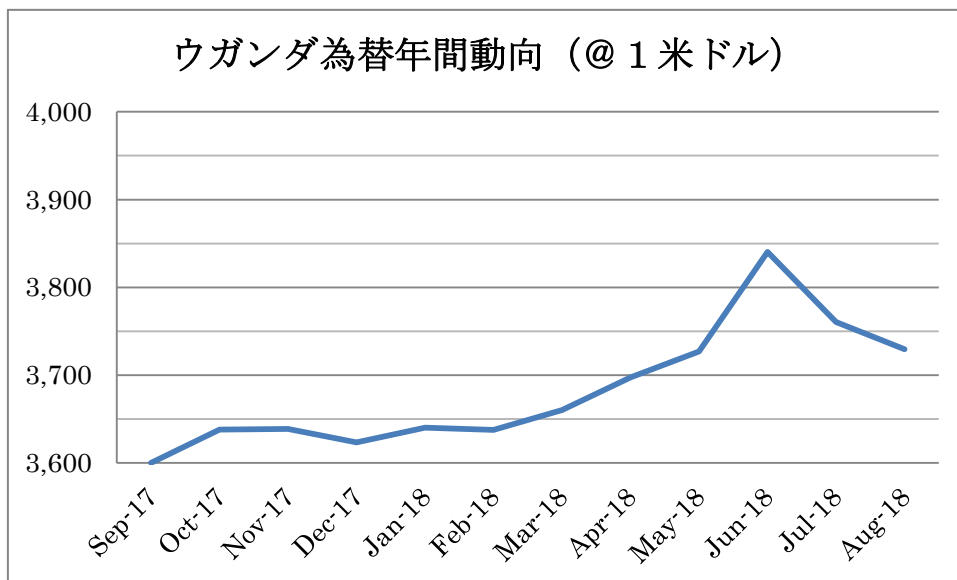
の242,024シリング(約65米ドル)から、2016／17年度には303,000シリング(約81米ドル)に増加した。牛乳生産も増加している。ウガンダからの対ケニア輸出は初めてケニアからの輸入を上回った。(30日付ニュー・ビジョン紙)

【経済協力】

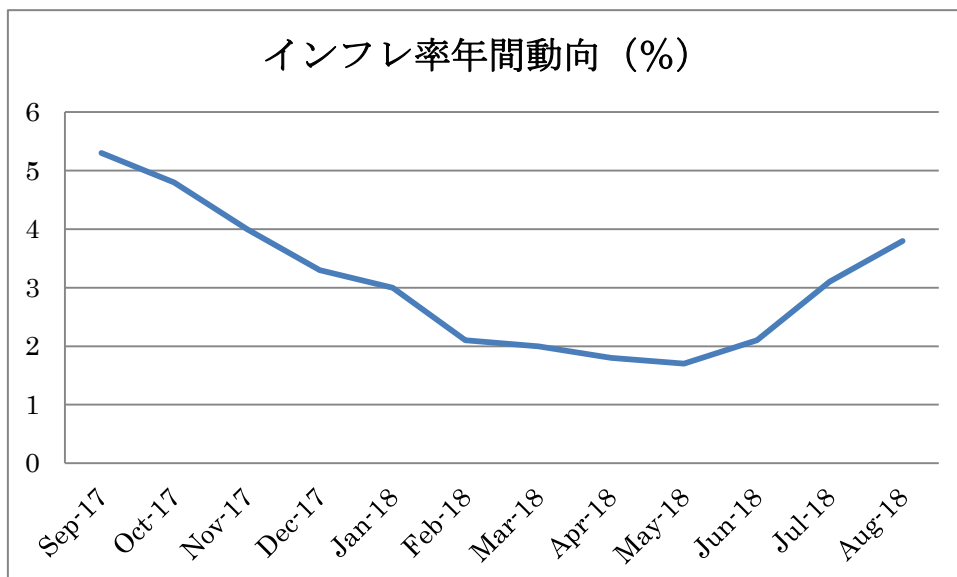
- 17日、平成26年度無償資金協力「クイーンズウェイ変電所改修計画」の完工式典が開催された。この計画は、JICAを通じ、日本の西澤株式会社及び株式会社きんでんによって実施され、総工費は2,620万米ドル。変電所は今年5月から運用を開始した。この変電所は、1993年に建設され、当初、33キロボルト(KV)変圧器で運用されていたが、産業化による需要拡大の中で確実かつ安定的に電力を供給するために132KV変圧器に改良された。(20日付ニュー・ビジョン紙)
- 24日、「官民連携を通じた性と生殖に関する健康(SRH)サービスのための質の高いケアの強化」の開始式が開催された。ウガンダの56の医療機関で、公衆衛生の改善及び疾病予防のために手指消毒液を試験的に利用することとなった。日本政府がこのプロジェクトに資金援助し、サラヤ・マニュファクチャリング社(サラヤ社の現地法人)が手指消毒液を提供し、Reproductive Health Uganda(RHU)が衛生活動を実施する。(9月4日付デイリー・モニター紙)

(別紙)2018年8月主要経済指標(ウガンダ中央銀行)

・ウガンダ・シリング為替相場@1米ドル:3,760.4シリング(前月3840.5シリング)



・インフレ率(前期比年率):3.1%(前月2.1%)



・政策金利:9.0%(前月:9.0%)

